

講義名	(対面)研究演習		
講義コード	25023	授業形態	
担当教員	桑原 桃音		
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5時限		
備考			

ゼミ
全学ゼミ
学部
全学部全学科選択可能
学科
全学部全学科選択可能

演習名
桑原桃音ゼミナール(メディア論、家族社会学)

概要説明
<p>【概要】 家族、ジェンダー、セクシュアリティ、恋愛、結婚、若者、日本文化、サブカルチャー、メディア等について社会的に分析・考察していく。近現代メディアを主たる分析対象とします。分析、考察するなかで、ディスカッション、プレゼンテーション、文章作成の能力を身につけてもらいます。関連するテキストの輪読・分析、資料の内容分析、必要があればフィールドワークなどを行い、レポートを作成します。</p> <p>【各年の計画】 【研究演習Ⅰ】 ゼミのテーマにかかわる基本的な文献、社会学の基本的な文献などを輪読します。資料を用いて実際に内容分析をして発表し、レポートにまとめていきます。必要があればフィールドワークを行います。 2018年度入学生は文章表現Ⅰ・Ⅱで使用したテキストを使用します。捨てないで残しておきましょう。</p> <p>【研究演習Ⅱ】 各自の興味あるテーマに関する文献をまとめて発表してもらいます。最終的に書評にしあげます。リサーチエッセションの切り出し方、参考文献、調査方法、調査データのまとめかたを学びながら、発表、論文の書きなどのアカデミックスキルを培います。最終的にレポートにまとめます。</p> <p>【卒業研究】 各自、テーマを決めて卒業研究に取り組みます。先行研究のまとめ、一次資料の分析などを発表してもらいます。最終的に卒業論文を執筆します。 上記はあくまで予定です。ゼミ生の学部、社会学の知識、研究したい内容、興味などを確認しながら、メンバー全員で相談しながらゼミをすすめていきましょう。</p> <p>【注意】 家族、恋愛、結婚、セクシュアリティ、性的指向に関するテーマを取り上げることが可能ですが、自分の経験を話すことを強要する場ではありません。この点を特に社会学系の授業を受講したことがない学生は誤解しないでください。ゼミの参加者からこのような発言を強要されることもありません。あくまで、資料から問題関心の答えやそのヒントを得ることを目指してください。</p>

学位
博士(社会学)

教員よりの要望
社会学的な思考枠組みを学びながら、メディアを資料として人の生や家族にかかわる問題を取り扱います。その問題を調査・研究して文章やPPTにしてプレゼンテーションをします。したがって、次のような学生を求めます。 ・文章が書ける。文章表現Ⅰ、もしくは文章表現Ⅱの単位認定を受けている学生が望ましい(研究レポートを課します。書評なども書いてもらいます)。 ・本や新聞が読める。もしくは、これから読んでいきたいという意欲がある。 ・課題を締め切りまでに完成させて、提出することができる。 ・議論や意見交換ができ、さらにグループで成果物を完成させることができる。 ・人や集団に対して偏見をもたない。人に対して尊重の気持ちをもてる。

教員英字氏名
Kuwabara Momone
研究室
研究棟Ⅴ 5422教室
最終学歴
龍谷大学大学院社会学研究科社会学専攻 博士後期課程 単位取得後退学

主な研究活動・社会活動・研究業績
【現在の研究テーマ】 ・戦前戦後における配偶者選択に関する歴史社会学的研究 その連続と断絶について ・ティーンズ誌『セブンティーン』における女子中高生の恋愛・恋愛言談分析 【主な研究業績】 単著：『大正期の結婚相談 家と恋愛にゆらく人々』晃洋書房(2017) 共著： ・下「私」を書くことがもたらした境界の揺らぎ：1930年代『東京朝日新聞』「女性相談」と山田わかへの回答 『女たちの翼 アジア初期近代における女性のリテラシーと境界侵犯的活動』青木恵理子編、ナカニシヤ出版(2018) ・『1970-1990年代の『セブンティーン』にみる女子中高生の恋愛表象の変容』小山静子、赤枝香奈子、今田絵里香編『セクシュアリティの戦後史』京都大学学術出版会(2014) (その他の業績は流通科学大学のHPの教員プロフィールを参照)

主な卒業論文のタイトル
まだ卒業研究を担当していません
趣味・特技
趣味は音楽鑑賞、ライブ鑑賞です。洋楽、邦楽、韓流、ジャンルに関係なく何でも聴くようにしています。好きなアーティストや楽曲を教えてもらえると小躍りするくらい嬉しいです。あと、ホラーゲームとホラーゲームのゲーム美況をみるのが好きです。
所属
人間社会学部 人間社会学科
所属学会
・関西社会学会、ジェンダー史学会、日本家族社会学会、日本社会学会、日本女性学会、日本マス・コミュニケーション学会、社会調査協会
専門分野
社会学(おもに家族社会学)、ジェンダー/セクシュアリティ研究、メディア論(おもにメディア史)
選考方法
・提出された書類、面談、面談前後に行うメールのやり取りの内容で選考します。 ・GW前に面談予定表とメールアドレス、メールに書くべき内容を掲示します。メールのマナーが目に入る学生は面談をお断り場合があります(わからなければインターネット等で調べる)。
担当科目
社会構造論、社会学基礎、メディア論、キャリア社会学、ジェンダー論、研究演習Ⅰ、研究演習Ⅱ、自己発見とキャリア開発A、自己発見とキャリア開発B
備考
評価方法
出席、課題提出、積極的な参加などを総合して評価します。
実務経験の有無及び活用